

オンラインで研究発表

鶴岡 高校生バイオサミット開幕



オンラインによる高校生らの研究発表が行われた
＝鶴岡市・慶応大先端生命科学研究所バイオラボ棟

県と鶴岡市、慶応大先端生命科学研究所(先端研、同市)でつくる実行委員会主催の「高校生バイオサミットin鶴岡」が23日、オンライン形式で始まった。1回戦を通過し、決勝に進んだ全国の生徒たちがバイオサイエンスに関する研究を発表しており、最終日の25日に表彰式が行われる。

1回戦は今日11日、書類審査を通った高校・高等専門学校70校の生徒・学生258人の研究116点を対象に、オンラインで行われた。決勝に進んだのは成果発表部門20点、計画発表部門15点で、本県からは両部門1点ずつが選ばれた。初日は成果発表部門の決勝が行われ、このうち酒田東高3年菅原さくらさん(17)は、自身が特別研究生となっている先端研のバイオラボ棟で発表に臨んだ。海洋プラスチックごみの問題に着目し、プラスチックを効率よく分解する海洋微生物を探索するため、

実験に取り組んだことを述べた。菅原さんは「環境問題を科学的に解決できないかと考えた。審査員の指摘や他の発表から新たな視点を得られ、さらに研究意欲が高まった」と話して

いた。サミットは11回目、新型コロナウイルス対策のため、前回に続きオンラインとした。24日は計画発表部門の決勝が行われる。
(三沢秀樹)